

令和2年度ステージラボ オンラインセッション シンポジウム『地域に今なぜアートが必要か』

第1部「地域とともに歩むコーディネーター」

■ファシリテーター

吉本光宏（よしもと・みつひろ） 株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事

1958年徳島県生。東京オペラシティや世田谷パブリックシアター、いわきアリオスなどの文化施設開発、東京国際フォーラムや電通新社屋のアート計画のコンサルタントとして活躍する他、文化政策、文化施設の運営・評価、創造都市、オリンピック文化プログラム、アウトリーチ等の調査研究に取り組む。現在、東京2020組織委員会文化・教育委員、東京芸術文化評議会評議員、(公社)企業メセナ協議会理事、(公財)国際文化会館評議員、文化経済学会(日本)理事、東京芸術大学非常勤講師等。主な著作に「再考、文化政策(ニッセイ基礎研所報)」「文化からの復興-市民と震災といわきアリオスと(編著、水曜社)」など。

■パネリスト

小川智紀（おがわ・ともりのり） 認定NPO法人STスポット横浜 理事長

99年より芸術普及活動の企画制作に携わる。04年、STスポット横浜の地域連携事業立ち上げに参画。14年より現職。現在、アートの現場と学校現場をつなぐ横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局、民間の芸術文化活動を支援するヨコハマアートサイト事務局を行政などと協働で担当し、福祉事業のネットワーク化を模索している。NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク理事、NPO法人アートNPOリンク理事、愛知大学文学部非常勤講師。

大月ヒロ子（おおつき・ひろこ） 有限会社アイデア代表取締役／おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・コーディネーター

板橋区立美術館学芸員を経て独立。ミュージアムづくり、展覧会監修、空間デザインを行う有限会社アイデアを設立し、数多くの公立ミュージアムの設立や運営に関わる。大阪府立大型児童館ビッグバン総合プロデューサー・東京国立近代美術館客員研究員・国立歴史民俗博物館客員准教授など歴任。2013年に倉敷市玉島にIDEA R LABを開設し、クリエイティブリユースをキーコンセプトにしたモノ作りやエリアイノベーションの実験を行い、国内外で廃材や端材を創造的に活用する公的プロジェクトを複数展開中。

若林朋子（わかばやし・ともこ） プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任准教授

英国で文化政策を学び、1999～2013年(公社)企業メセナ協議会プログラム・オフィサー。企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事。在職中ネットTAMの立上げ・運営も担当。13年よりフリー。「ともに最適解を考える」をモットーに、企業・自治体・NPOの支援、評価、助成、執筆など、事業企画やコーディネート、コンサルに取り組む。夜間は社会人大学院教員。社会デザインの領域で文化、アートの可能性を探る。

津村 卓（つむら・たかし） 一般財団法人地域創造プロデューサー

85年大阪ガス扇町ミュージアムスクエアを企画し、副支配人兼プロデューサーに就任。87年より02年まで兵庫県伊丹市の伊丹市立演劇ホール(アイホール)チーフプロデューサーの傍ら、95年より財団法人地域創造プロデューサーを務める。

北九州芸術劇場館長・顧問、長野県上田市交流文化芸術センター館長を2020年3月退任。現在、長崎市文化アドバイザー、長野県芸術監督団メンバー。